

学校保健委員会だより

平成 25 年 12 月 9 日

11 月 29 日（木）に、本校において学校保健委員会が開かれました。
学校医・学校歯科医・学校薬剤師・PTA 副会長さんが来校され、本校の生徒の健康課題について意見をいただきました。

○報告

視力 1.0 未満の生徒に対して、眼科受診を促し適切な処置を行うよう働きかけた。また、歯科健診後の未処置者数は、多くはないものの毎年同じ傾向である。

相談活動の内容を見ると、性に関する相談件数が減った。毎年の講演会を活用した予防教育の成果が表れているのかもしれない。

学校歯科医より）

- ・全体的に口腔状態はよい。未受診者の意識改革は必要だと感じている。
- ・検診時に相談活動を行っているが、毎年「親知らずの炎症」が多い。
- ・歯並びに問題のある生徒がみられる。
- ・治療済みの生徒でも、二次カリエスになっていたり、歯周疾患にかかっていたりする生徒がいる。

学校薬剤師より）

例年、晴天の時に検査していたが、本年度雨の中の検査となった。悪天候の中では照度が不足するところがあった。図書室の書架の付近とパソコン設置場所で基準値に届いていないため、照明器具の設置が必要である。

→図書室の照明については、すでに要望している。

- ・これから、暖房が入ってきた時には換気の徹底をお願いしたい。

教育相談活動について

- ・心と体の相談を年に 3 回岸本先生に実施してもらっている。

岸本先生）一人の子の悩みについて、様々な立場の人が話を聴くことが大切だと思っている。これからは、スマートフォンによるトラブルを心配している。

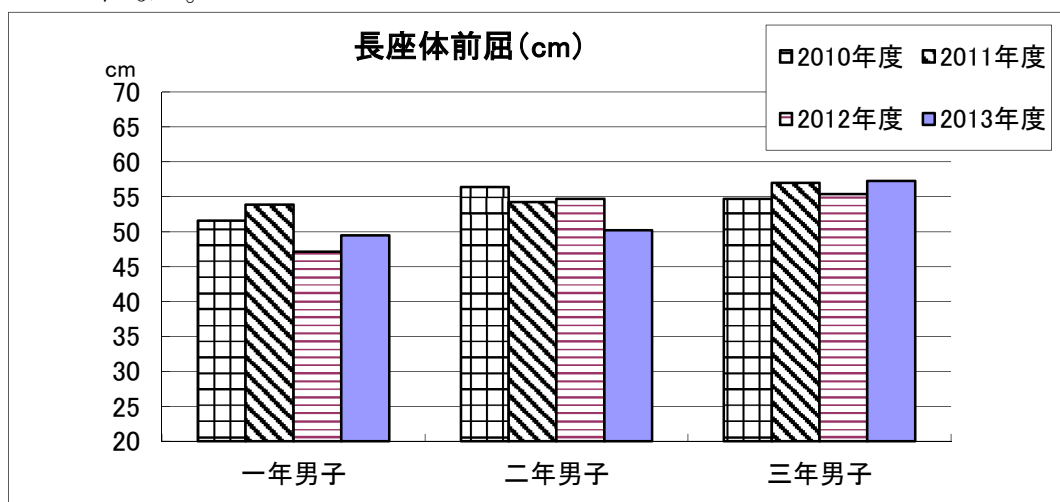


○協議

課題：スポーツ振興センターの件数は減っているものの、支給額が増えている。
入院・手術を要するけが（鼻骨折、前十字靱帯損傷）が増えている。

現状：新体力テストのデータより

柔軟性の平均値が、1年・2年ともに4年前に比べて低くなっている。3年生になると、柔軟性が高くなっていく傾向がみられる。女子では、大きな差は見られない。



（対策）

今後も、体育の授業で、柔軟性を高める運動を取り入れてきたい。

学校医より：どんな状況でけがが起きているかを運動部全体に伝え、自分の種目では、何に気をつけたらいいか考えさせる事もできるのではないかな。

校長：体調管理（体調が優れないときはペースを落とす）能力や、危険を予知する能力を育てることも大切である。

質疑）熱中症の基準ができて、部活動制限が行われるようになるという報道を聞いたが、どうなっているか。

- ・現在、県教育委員会がガイドブックを作成し、パブリック・コメントを求めている段階である。今年度中に、基準が示される予定である。
- ・夏季休業中の部活動対策としては、熱中症指数系で測り、部活顧問に注意を促している。練習の時間を夕方にならして暑さになれさせている部もある。

PM2.5 への対応など、学校では新たな健康課題に直面している。今後もこの会を通して、助言を頂きながら、生徒の健康増進のために、生徒・保護者に啓発していきたい。

